

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

●支部学術大会報告 .....217

## 支部学術大会報告

### ●九州支部学術大会

平成 25 年 8 月 24 日（土）と 25 日（日）の 2 日間に渡り、佐賀県立男女共同参画センター 佐賀県立生涯学習センター（アバンセ、佐賀県佐賀市）において、福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野 高橋裕会長のもとで、平成 25 年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部総会・学術大会が開催されました。本学術大会は一般社団法人佐賀県歯科医師会と福岡歯科大学同窓会のご後援をいただきました。一般口演 8 題、ポスター発表 12 題、専門医ケースプレゼンテーション 5 題が発表され、活発な質疑応答が行われました。参加者は 217 名でした。

特別講演には鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座の大久保力廣教授をお招きし、「ノンメタルクラスプデンチャーの功罪—適応症を考える—」と題して、近年のトピックであるノンメタルクラスプデンチャーについて、基礎的研究成果と豊富な臨床例を中心に詳細にお話しいただきました。情報量が大変多く、素晴らしいご講演でした。

併催された生涯学習セミナー「補綴主導型インプラ

ント治療の次なるステージ」では、コーディネーターに福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野 城戸寛史教授を、シンポジストとして森永 太先生（佐賀県）と中居伸行先生（京都府）をお招きし、臨床の最前線でご活躍されているそれぞれのお立場からお話しいただきました。市民フォーラム「入れ歯で快適ライフ」では、小柳進祐先生（佐賀県）と平山輝久先生（佐賀県）に一般の方を対象にわかりやすくお話しいただきました。

今回、「有床義歯の難症例に対する補綴的治療例とエビデンス」という共通テーマのセッションを企画し、九州支部 5 大学の有床義歯関連分野の講師あるいは筆頭助教の先生方に講演をお願いしました。症型分類、顎義歯、フランジテクニック、リライン、無歯顎難症例の問題点といった多様な話題を提供していただき、有意義な研修の場となりました。

佐賀駅の一部が冠水するほどの記録に残るような集中豪雨にもかかわらず多くの先生方にご参加いただき、盛会裏に終了しました。（福歯大 清水博史）



質疑応答風景



特別講演の大久保力廣先生と高橋大会長

### ●東海支部学術大会

平成 25 年 10 月 26 日（土）、27 日（日）に、朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野局部床の都尾元宣を大会長とし、平成 25 年度東海支部総会ならびに学術大会が岐阜市のじゅうろくプラザにおいて開催されました。

一般口演 13 演題、専門医申請ケースプレゼンテーション 4 演題の発表があり、活発な質疑応答が交わされました。

また、市民フォーラムと生涯学習公開セミナーが併催されました。

総参加人数は 200 名を超える補綴歯科学会会員と一般参加者でした。

市民フォーラムは『在宅診療における口腔ケアと歯科治療』というテーマで行われ、朝日大学歯学部の藤原 周先生が座長とコーディネーターとして「身近になった在宅・訪問診療？どんなものかな？どうすれば良いのかな？」と題して、また名古屋市の鈴木俊夫先生から「おいしく食べる・食べられる」と題したご講演をいただきました。

平成 24 年の保険改正や社会保障国民会議の重要項目として一般の方々に理解しやすいお話をいただき、市民に在宅医療における歯科補綴を理解していただく良い機会となったと思われまます。

生涯学習公開セミナーは『周術期歯科医療の現状』というテーマで行われ、大会長の都尾元宣が座長とコーディネーターとして「周術期の必要性」と題して今回のテーマの必要性や社会背景について話し、朝日

大学歯学部の式守道夫先生から「周術期医療について」というご講演をいただきました。

歯科補綴治療患者は高齢者が多く何らかの基礎疾患を有する場合の対応について学ぶことができ、台風一過の風の強い二日間ではありましたが、会場内は充実した内容で熱気あふれる有意義な学術大会でありました。（朝日大 都尾元宣）



会場風景（10月26日市民フォーラム）



支部学術大会スタッフ

### ●関西支部学術大会

平成 25 年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部総会ならびに学術大会を、社団法人大阪府歯科医師会のご後援を戴きまして、平成 25 年 11 月 23 日（土）、24 日（日）の 2 日間、大阪府中央区の大阪歯科大学



大阪歯科大学創立 100 周年記念館

天満橋学舎の新築完成されました創立 100 周年記念館で開催致しました。

今回の学術大会では特別講演と致しまして、「欠損補綴治療の要諦—長期経過症例から学ぶ」をテーマに五十嵐順正先生（東京医科歯科大学元教授、大阪歯科大学 客員教授）にご講演を戴き、欠損補綴治療のノウハウをご教授いただきました。また、本学会会員および地域の歯科医療にご貢献されている先生方を対象にした生涯学習公開セミナーを開催致しました。テーマは「歯科におけるバイオサイエンスの基礎と応用」で、第一線で活躍されている 3 名の先生方、本田義知先生（大阪歯科大学講師）、江草 宏先生（大阪大学大学院歯学研究科助教、当時）、西村 正宏先生（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授）にご講演を戴き、最新の歯科医学研究の進捗をご披露いただきました。

さらに、一般口演と致しましては 21 題、専門医ケースプレゼンテーションでは 2 題の発表もあり、300 名

を超える参加者の皆様共々、大会を大いに盛り上げて下さいまして厚く御礼を申し上げます。

また、支部学術大会に先立つ11月21日(木)に大阪大学中之島センターにて「天然歯とインプラントに与える咬合を生理学的立場から考える」をテーマに専門医研修会を開催致しました。講師は Trulsson 先生

(Karolinska Institute, Sweden 教授), 姜 英男先生(大阪大学大学院歯学研究科教授), 田中昌博先生(大阪歯科大学教授)で参加者は160名を数えました。講演ではインプラントの咬合に関する最新の知見をご披露頂き、盛会でありましたことをここに合わせて記載させていただきます。(大歯大 岡崎定司, 西崎 宏)



特別講演、五十嵐先生



生涯学習公開セミナー、左から江草先生、西村先生、矢谷理事長、本田先生、岡崎支部長

### ● 関越支部学術大会

平成25年11月30日(土)、栃木県宇都宮市の栃木県歯科医師会館において、新潟大学医歯学総合研究科生体歯科補綴学分野の魚島勝美を大会長として平成25年度公益社団法人日本補綴歯科学会関越支部総会・学術大会が開催されました。学術大会に先立って開催した専門医研修会には、新潟大学医歯学総合病院顎関節治療部の荒井良明准教授を講師としてお招きし、「顎関節症の患者立脚型の治療体系」と題して、現在の顎関節症治療の考え方を分かりやすく解説していただきました。また、学術大会冒頭では特別講演として新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野の野村修一教授をお招きし、「高齢者の無歯顎補綴治療—40年間の臨床から観えてきたこと—」と題して、総義歯の臨床に関する先生の40年の集大成をご紹介いただきました。その後の一般口演は9演題で、それぞれに参加者間で活発な議論が交わされました。参加者は40名余りでしたが、会員間の情報交換や親睦という意味で有意義な学術大会となりました。

関越支部に所属する大学は新潟県にある2校のみで、群馬県、栃木県には大学がありません。会員数も決して多くはないところで、毎年学術大会を開催することは決して楽ではありませんが、支部会員への学術情報の提供や情報交換といった点では非常に重要で意義のあるものと思います。今回の学術大会開催にあたり、

ご尽力いただいた栃木県の会員の先生方には本当にお世話になりました。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。(新潟大 魚島勝美)



学術大会の様子



特別講演講師の野村修一先生と小出馨支部長

## ●西関東支部学術大会



特別講演をご講演頂いた In-Ho Cho 先生(左)と玉置勝司西関東支部支部長(右)

平成 25 年度公益社団法人日本補綴歯科学会西関東支部学術大会は、平成 26 年 1 月 12 日に大久保力廣大会長のもとパシフィコ横浜アネックスホールにて開催されました。本年度の学術大会は、臨床に役立つ歯科補綴学の情報を多くの歯科関係者に対して発信できるよう神奈川県歯科医師会および日本義歯ケア学会との共同開催でもありました。また、学術大会の前日には、学会場に隣接する横浜国際平和会議場にて、生涯学習公開セミナーが開催され「全部床義歯の要訣—失敗しないた

めのワンポイントアドバイス—」をメインテーマとして、高山慈子先生(鶴見大学)、高橋 裕先生(福岡歯科大学)、水口俊介先生(東京医科歯科大学)に全部床義歯治療の秘訣について臨床に役立つ肝所をご講演して頂きました。学術大会の特別講演では、より理解を深めるために専門家による逐次通訳を交えて、In-Ho Cho 先生(Dankook 大学、韓国)による「Contemporary Korean Dental Implant and Magnetic Attachment」のご講演が行われました。その他に一般口演およびポスター発表 14 演題、専門医ケースプレゼンテーション 5 題の発表が行われ、活潑な質疑応答が交わされました。西関東支部では支部学術大会にて優秀発表を行った若手研究者に対してイーストレキ賞を授与しています。本年度は仲田豊生先生(鶴見大学)および斎田牧子先生(神奈川歯科大学)が受賞されました。本年度の学術大会は、同会場の 1 階にて横浜デンタルショーが併催となったこともあり、参加者数は例年を大きく上回る 260 名を数え、神奈川県歯科医師会および日本義歯ケア学会とともに活発な学術交流が行われました。(鶴見大 諸熊正和)

## ●東関東支部学術大会

平成 26 年 2 月 9 日(日)、浦和ロイヤルパインズホテルにて明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野藤澤政紀大会長のもと平成 25 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東支部総会・第 17 回学術大会が開催されました。本学術大会は、埼玉県歯科医学大会との共催でもあり、72 名の歯科医師会員の御参加がありました。一般口演 8 題、専門医ケースプレゼンテーション 2 題が発表され、活潑な質疑応答が行われました。前日の記録的な大雪のため開催も危ぶまれましたが、234 名と多くの方々にご参加いただき、参加者同士の交流を深める場として有意義な学術大会でありました。また、生涯学習公開セミナーでは、東北・北海道支部の梅原一浩先生をお招きして、「補綴治療におけるデジタルソリューションの展望～歯科用 CBCT

を用いた補綴学的診断と顎機能解析の可能性～」というテーマでしたが、CBCT だけでなく CAD/CAM や下顎運動にまで話は広がり、非常に有意義な講演でした。また、市民フォーラムでは、日本大学松戸歯学部准教授の小見山 道先生に「歯の痛み、入れ歯の痛み、顔と頭の痛み」をテーマとして、痛みの原因、治療法などのわかりやすい講演を一般のかたのためにして頂きました。

なお、前日の専門医研修会では日本大学歯学部の小峰 太先生に「失敗しないオールセラミック修復へのワンポイントアドバイス」というテーマで、また、東京都文京区で御開業の坪田有史先生には「クラウンブリッジのトラブルからみた支台築造の現在」というテーマで御講演して頂き、盛会な研修会となりました。(明海大 岩瀬直樹)



専門医研修会に参加された矢谷理事長(右)と講師の小峰先生(左)



生涯学習公開セミナー講師の梅原先生(左)と藤澤大会長(右)